

手作りマスクいかが

新型コロナウイルスの感染予防に障害者も一役。平塚市内の障害者施設利用者が作った商品を販売する福祉ショップ「ありがとう」(同市役所1階)で、手作りマスクが好評だ。マスク製作は昨シーズンまで市内1施設のみだったが、不足の事態を受け、施設に拡大。売り上げの一部は施設利用者の工賃となり、障害者の生きがいづくりにもつながっている。

(深沢 剛)

厚生労働省が「ありがとう」のカンターは、マスクを買い求める職員や来庁者が絶えない。本格販売を始めた1日は約30枚が2時間で完売、13日も85枚を仕入れたが昼休み明けに売り切れだ。「去年までは1日1枚程度だったけど...家族の分までまとめて買っていく人が多い」。同ショップの運営協議会の高橋眞木会長は話す。

価格は1枚100〜135円。日頃から小物など縫製作業を手掛ける事業所が協議会の呼び掛けでマスク生産に踏み切った。施設内で使うマスクも不足する中、職員が街を駆け回ってガーゼや布、ゴムなどの材料をかき集めた。

知的障害者施設「サンメッセいわね」(同市高根)の商品は、洗って使える染めつきマスク。季節の花などを染料で描き、布巾として売る予定だったが、どうしても量産が難しく、通ししを量産でゴムを通した。「新型コロナウイルスの感染が終息した後はゴムを外して、布巾として使って」と呼び掛ける。

平塚の福祉ショップで好評

同施設で布作りに10年

「サポート湘南」(同市1階)は、視覚障害者がコミュニケーションやツピングなどの作業を担う。毎年インフルエンザシーズンに120枚ほど売れるが、今シーズンだけでも支援員の岡本千秋さんは「これだけマスクが必須とされる。障害者の働く喜びにもつながる」。

高橋会長は「障害者が作った物が市民に届けられる女性(巧)も「今ほどに行ってもマスクがなくて困る。かの手作り商品も手に取ってほしい」と期待。今年も毎日50枚程度の販売を目指すといい。

障害者の働く喜びにも

障害者の手作りマスクを販売する福祉ショップ「ありがとう」
＝平塚市役所



続ける地域活動支援センター

5年前からマスク製作を始めたので、ありがたい」とも話した。今年も毎日50枚程度の販売を目指すといい。

高橋会長は「障害者が作った物が市民に届けられる女性(巧)も「今ほどに行ってもマスクがなくて困る。かの手作り商品も手に取ってほしい」と期待。今年も毎日50枚程度の販売を目指すといい。